

# 指導支援部門

## 北海道三石郡三石町 三石町和牛センター

(代表：三石町長 村井 兵作)

夢を実感でき、  
地域を活性化する肉牛経営を育む



三石町和牛センターのみなさんと  
肉用牛生産者のみなさん

三石町和牛センターは、繁殖牛の資質向上と子牛生産の拡大、さらには付加価値をつけた肥育牛生産を目的とし、技術・経営支援、地域内連携の支援等の活動を行う町の機関である。

三石町の農業は、稲作と軽種馬生産が中心であったが、生産調整による転作と不況による軽種馬経営の不振等から肉用牛や野菜・花卉生産に比重を変えつつある。肉用牛については、生産者の経験等が乏しく、安定した経営・技術にはほど遠い状況であったため、町が和牛センターを設立し、生産現場での指導・支援を実施することになった。

当初、繁殖を主体とした活動であったが、繁殖経営だけでは経営の安定につなげることが困難と判断し、地域内における繁殖肥育一貫を推進した。

具体的な活動として第一は優良牛群づくりである。優良繁殖雌牛確保のための特徴を整理すると、平成10年度より繁殖牛の育種価判明を加速化、肥育成績の出ていない繁殖雌牛の産子を肥育する場合に助成する町単独事業を開始した。その一方で、町・JA・生産者からなる評価委員会において優秀な繁殖雌牛を指定しその産子の自家保留を勧める活動も行ってきた。

新規種雄牛の後代検定も推進している。かつての肥育技術試験主体から現場後代検定を主体とした肥育試験に移行し、産肉能力の把握に取り組んでいる。肥育の全てを農家の責任で実施することは農家にとってリスクが大きい。そこで和牛センター自体が市場経由で買い取り、検定する取り組み

も実施している。市場経由であるため三石産もと牛の買い支えの購入行動ではない。なお、検定結果は全農家に交配のための資料として提供している。

第二には肥育技術向上のための支援である。平成4年から週2回の農家巡回を開始し、給餌、増体、畜舎環境等を把握し指導するとともに、飼養管理方法、交配などの相談に対応している。また、各種研修会の開催や共励会への出品、先進地視察の推進等を行っている。

第三にはコスト低減のための支援活動である。肥育牛出荷の販売経費削減のため、一定ロットを確保し共同出荷を行っており、センター所有牛がその調整弁的役割を担っている。また、簡易牛舎の建設、除角や削蹄等の共同作業を推進している。

このほか、稲わらや堆肥の供給可能農家と需要農家を取りまとめて円滑な供給を行う体制づくりを行っているほか、肥育農家自らが余剰堆肥の畑地への野菜作付けを促進するなど、地域内における資源の有効活用を目指した活動を実施している。また、町内の他作目からの経営転換希望者などを実習生として受け入れ、生産技術を習得させるなど担い手確保・育成の活動も実施している。

このように町の和牛センターは、繁殖から肥育までの一貫した指導支援により、質の良い肉牛を出荷する体制を構築した。地域内肉用牛経営が安定するとともに、三石町以外からの「みついし牛」出荷の体制整備など波及効果も現れ、近隣町を巻き込んだ経営の安定をもたらすことになった。

# 活動のすかた



## ▲三石町和牛センター全景

繁殖牛舎3棟・分娩牛舎2棟・育成牛舎1棟・肥育牛舎5棟を有し、平成15年4月現在、繁殖牛37頭・育成牛23頭・肥育牛196頭を飼養、優良牛群づくり等の各種活動を行っている。

## ▼肥育技術向上のための活動（研修会の開催）

センター担当者による個別経営に対する週2回の巡回指導と専門家による現場指導、さらには集合研修会等で高成績の安定出荷を達成している。写真は講演会の様子。



## ▲みついし牛枝肉研究会の様子（東京食肉市場）

地域内の競争意識の高揚のため、東京食肉市場関係者の協力を得て、平成8年より開催している。

## ▼実習生への生産技術指導

担い手確保、育成のため、町内の他作目からの経営転換希望者や新規参入予定者を実習生として受け入れ、生産技術を習得させている。



## ▲コスト低減のための支援活動（簡易牛舎の建築）

一定ロットを確保しての共同出荷、簡易牛舎の建設、除角や削蹄等の共同作業の実施を推進するなどコスト低減のための支援活動を行っている。写真は簡易牛舎の建築。